

令和 7 年度 学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 都立葛西工科高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員 2 名 計 3 名
- (3) 内部委員の構成
副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（生活指導担当）、主幹教諭（進路指導担当）
計 5 名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（元大学教授）、PTA会長、同窓会長、地域有識者（地域企業団体代表者）、近隣中学校長 2 名、近隣自治会代表者 2 名、消防署長、警察スクールサポーター 計 1 0 名

2 令和 7 年度学校運営連絡協議会の概要

今年度は、すべて対面開催とした。

(1) 学校運営連絡協議会

- 第 1 回 令和 7 年 6 月 2 0 日（木）内部委員 6 名、協議委員 6 名
学校運営連絡協議会の趣旨説明、学校近況報告、外部委員の紹介、協議委員委嘱
- 第 2 回 令和 7 年 1 1 月 2 8 日（木）内部委員 6 名、協議委員 6 名
学校近況報告（各分掌より）、協議委員からの教育活動に対する意見
- 第 3 回 令和 8 年 3 月 1 3 日（木）内部委員 6 名、協議委員 7 名
学校近況報告（各分掌より）、協議委員からの教育活動に対する意見

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

- 第 1 回 令和 7 年 6 月 2 0 日（木）外部委員 2 名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた内容を報告。
- 第 2 回 令和 7 年 1 1 月 2 8 日（木）外部委員 2 名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期を報告。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・ 1 月 全校生徒 回収：2 4 0 人
- ・ 1 月 保護者全員 回収： 7 0 人
- ・ 1 月 地域住民 回収： 7 8 人
- ・ 1 月 近隣中学校生徒 回収：2 5 1 人
- ・ 1 月 教職員 回収： 3 3 人

(3) 主な評価項目

- ・ 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、部活動、安全、施設・設備等
- ・ 学校の特色化に対する保護者・地域・中学校の理解
- ・ 地域との連携事業及び奉仕活動・ライフワークバランス

(4) 評価結果の概要 (学校及び校長への意見・提言内容)

- ・生徒の理解度に応じた教科指導、授業の進度について、生徒と保護者ともに約8割が肯定的な回答をしている。また、質問のしやすさにおいても、8割以上の生徒が肯定的な回答をしている。
- ・生活指導においては、身だしなみや生活態度、社会のルールを順守することについては、取り組みが浸透していることがうかがえる。また、家庭においても8割以上の保護者が生活指導の方針を理解していると思うと肯定的な回答をしている。
- ・生徒・教員間の関係性について、生徒・教員ともに約9割が肯定的な回答をしている。つまり、生徒・教員間で良好な関係が築けていると考えられる。
- ・進路指導において、適切な指導・助言が行われていると回答した生徒・保護者の割合が高い。しかし、保護者との連携を密に図った進路指導を行うことに課題があることが考えられる。

(5) 評価結果の分析・考察 (学校及び校長への意見・提言)

- ・生徒に対して継続的なキャリア教育や進路指導を行うだけでなく、三者面談等を用いて、1年の早い段階から保護者とともに生徒の進路を考えていく。
- ・授業の振り返りをする時間を設け、生徒の理解度を把握するとともに、机間指導を通してつまずきのある生徒を支援するなどをして授業改善に努める。
- ・保護者やスクールカウンセラーと連携し、生徒が悩み事を相談しやすい環境づくりを行う。
- ・進路指導において、今後も継続して情報収集を行い、生徒の適性や希望を生かした指導を行えるように保護者と連携して進路指導を行う。
- ・就職率や就職先・進学先、科の特色など、葛西工の良さを広報活動で伝え、入学してよかった、中学生に入学を勧めたいと思える学校づくりを行う。

4 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項 (学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

- ・生徒や保護者における教育目標の理解をより深めるとともに、地域連携を積極的に行うことで、開かれた学校づくりをより充実させる。
- ・保護者連絡や面談を継続的に実施し、保護者と学校の連携を密に行う。

(2) 学習指導

- ・生徒の理解度を把握するとともに個に応じた指導を行うことで、生徒に基礎・基本の定着を図る。
- ・資格取得の機会を多く与え、今後も継続して積極的に指導を行う。

(3) 生活指導

- ・生徒指導の方針をより明確にし、保護者と連携して生徒に寄り添った指導を行う。
- ・スクールカウンセラーとの連携や生徒との関わりを密に図ることで、相談しやすい環境づくりを行う。

(4) 進路指導

- ・インターンシップなど外部と連携した進路指導を継続的に行う。
- ・生徒の適性や希望に沿った進路の実現を行うために、1・2年と早い段階から断続的に指導を行う。

(5) 特別活動

- ・実施できる行事を検討し、本校の良さや特色を生かした行事を実施する。

(6) 健康・安全

- ・外部と協力して安全教育を行うことで、生徒の防災・安全意識を高める。

5 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- ・今年度は参加実績はなし

6 その他